堺・鉢ヶ峯「里山一斉調査」報告――２０２２年

報　告／酒井　和子

日　時／２０２２年４月１０日（日）９：３０～１４：３０　晴れ

主　催／鉢ヶ峯の自然を守る会、公益社団法人大阪自然環境保全協会・堺自然観察会

参加者／一般参加８人（うち子ども２人）、スタッフ６人　計１４人

コース／どんぐり広場横トイレ前＜挨拶＞～どんぐり広場～鉢塚バス停前～菜の花畑～林～圃場整備の農道～内河池～急坂～＜トイレ休憩＞～東西道路～谷頭池～中央道～タカ見台＜昼食＞～勾玉の田んぼ～第二豊田川沿いの管理道～ふれあいの森・ピロティ＜まとめ＞～どんぐり広場＜解散＞

観察・調査／お天気は上々だったが、黄砂なのか上空はどんよりしている。このところの陽気で春が一気に進み、カスミザクラもシデザクラも３分咲き、クヌギやクスノキの新葉ががまぶしく輝いている。

集合場所で検温と挨拶、コースの説明をして出発した。

・トイレ前～どんぐり広場

先ずタンポポ調査。セイヨウタンポポとカンサイタンポポを「タンポポ調査」の資料をもとに総苞片を調べ、植え込み内のセイヨウタンポポと草地のカンサイタンポポの生育環境の違いを観る。

・鉢塚バス停前（コジイの森）

斜面地にネザサの花が咲いていた。ちょっと珍しい。黄色い葯がぶらぶらしていた。「これ何？」と紫色の小花を目ざとく見つけた参加者。陽当たりのよい草地に咲くヒメハギで、紫色の花が可愛らしい。バス停の背後が「コジイの森」。純林に近い森で、高台にあるので鉢ヶ峯のでランドマークになっている。お薦めは林縁のタイミンタチバナ。南方系の樹木で、堺市のレッドリストに挙がっている。今、ちょうど蕾と花だが、枝が高くてちょっと見にくかった。

・菜の花畑

菜の花は真っ盛りでミツバチの羽音がする。地面は一面のヤワゲフウロの花。鮮やかなピンク色で、可愛い！の声しきり。葉に”ネコ毛”のような柔らかい毛がある。新参者の帰化種だが、繁殖力が抜群で瞬く間に鉢ヶ峯の農耕地に広がった。

・林

集落と農耕地の狭間にある小さな林でエノキ、ムクノキ、カゴノキ、ヤブツバキ、クヌギ、それに、カキ、ビワ、サンショウなどを観る。いかにも里山――”山”と”里”の樹種が混在していて、「鳥だまり」（野鳥の休憩場所）になっている。

・圃場整備の田んぼの農道

広い田んぼの上空ではヒバリが囀り、どこからかキジの声。下見ではケリもいた。この３種は堺ではレッドリスト種に挙げられている。ほかにもホオジロやカワラヒワなどが多種見られ、バードウォッチングのフィールドである。菜の花の道が続き、キチョウやモンシロチョウが飛び交い、子どもたちが網を振る。

・内河池

冬場はオシドリの”名所”で知られる大きなため池。下見で♀♂を確認したが、

果たして日曜まで滞在しているかどうか...。幸い調査日にはまだ居残っていた。向かいの雑木林はかつてはカスミザクラの山であったが、衰退して常緑樹に遷移しつつある。カスミザクラの寿命が短いためか、常緑樹に押されて更新出来ていないのか,,,.。里山一斉調査の初期の頃とは里山の景観が違ってきている。

・**急坂**　＜トイレ休憩＞

息が切れそうな急坂だが、植栽されたカリンの花を見ながら歩くと難なく東西道路に出た。ここでトイレ休憩（ハーベストの丘の販売所でトイレを借りた）。

・**谷頭池**

古くからの池と人工池があり、古い方の池には希少な生き物が存続している。網を入れるとミナミメダカがたくさん掬えた。ミナミメダカは環境省の絶滅危惧Ⅱ類。ホソミオツネントンボもいた。昨年も確認したのでここで越冬、繁殖しているのだろう。人工池では堺市アラート種のウシガエルのオタマジャクシがうじゃうじゃいた。イタドリが出ている。芽は食可。齧ってみると、ちょっと酸っぱい。

・**中央道**

シャガの花、カキドオシの花の群れ。ザイフリボクの花は三分咲き。コバノミツバツツジは満開。モチツツジは蕾と花―萼がねばっこいので地元の人は「ネバツツジ」と呼んでいる。アオキの雄株にエンジ色の花。アカシデには雄花と雌花。メジロやシジュウカラが賑やかにおしゃべりをしている。

・**タカ見台　＜昼食＞**

林縁にアケビの花。つる性で淡い紫色の花を頭上高くまで咲かせている。ここで昼食。目の前のオオタカ尾根はカスミザクラが群生地で１５年ほど前までは、花の頃は「ミニミニ吉野山」であったのだか、ここでもカスミザクラは減少気味。コナラのナラ枯れが無残な姿をさらしている。

・**勾玉の田んぼ・上池・用水路**

本当に残念なことに、今回はニホンアカガエル（幼生）もヤマトサンショウウオ（幼生）も見つからなかった。「いない」のを確認するのも調査の内だが、さびしいなぁ。休耕田は一面のレンゲ畑。ミツバチがせっせと蜜を集めている。

・**第二豊田川沿いの管理道**

ウグイスが行く道々で鳴いてくれる。林縁にショウジョウバカマの花が点々と咲いている。フキの花。これは自生。ネコヤナギも花。からから天気が続いてどこも乾燥気味だが、この管理道ではところどころにぬかるみがある。人にとっては足を取られて歩きにくい箇所だが、生きものにとっては貴重な水場。初夏のホタル類の発生地にもなっている。丸太置き場でみんながワイワイ騒いでいる。ニホンカナカナヘビ探しだった。ルリタテハやテングチョウ、ヤマトジミを見かける。

・**ふれあいの森・ピロティ**

「里山の動植物チェック」シートに従ってみんなで観察種をチェック。今年は動物のフィールドサインが見られなかったし、猛禽類も飛んでくれなかったが、昆虫や野鳥、樹木や草花はリスト外の種が色々見られて、鉢ヶ峯の自然の豊かさが実感できたようだった。来年も待っています、また来てね。

挨拶とコース説明

タイミンタチバナ　コジイの森の林縁

一面のヤワゲフウロ（帰化種）

内河池のオシドリ（４／４　下見）

ミナミメダカ　堺市RL種

ウシガエルのおたまじゃくし　堺市アラート種

中央道のシャガ

中央道のアオキ

アケビの花　真下で昼食をとる

ため池で両生類の調査

斜面地にショウジョウバカマの花

第二豊田川沿いにフキが自生

ホソミオツネントンボ　谷頭池で繁殖

参加者　感想文

里山一斉調査に参加して

古川

今回で 3 回目の参加になりました里山一斉調査。去年のどんぐりまつりが中止となり残念に思っていましたので、家族で楽しみにしていました。

散策しながら草花を見て、去年のことを思い出し、今年も同じ草花や昆虫、鳥の鳴き声が聴け、良かったなぁと思いました。

やはり、ヤマトサンショウウオが鉢ヶ峯から見られなくなってしまっているのが残念に思い、里山を守っていくこと、変わらないことの大切さを実感しました。

子供達が今回印象に残ったのは、鳥の鳴き声がたくさん聴けたこと、最後のふれあいの森の川でカルガモを見れたことだったとのことです。子供達も去年の酒井さんの草花の話を思い出し、同じような所に今年も発見できたこともうれしかったようです。

これからも里山に触れ、自然を思う時間を大切にしていきたいと思いました。ありがとうございました。

第40回里山一斉調査

神楽所　眞里

私は随分ご無沙汰で、参加させて頂く事になり、とても嬉しく思います。
今回は植物が好きな方と知り合い、いっしょに来させて頂きました。鉢ヶ峯は知っている様で忘れている所を思い出してなつかしく、やっぱり観察は楽しいです。
花や野草、樹木を見ていると、野鳥の声が聞こえて来る。

家の近くでもメジロやシジュウカラ、スズメ、ツグミもやって来るので、鳴き声を真似したりしています。

調査は、レッドリストが徐々に増えているのにショックでした。最近見ていないスミレやレンゲや、ヘビイチゴ、ヤブツバキに出会えて良かったです。

アマガエルは梅雨でもないのに早くから鳴いて、逆に今日は鳴いていません。それからテントウムシがアブラムシを食べていたのを知ってアブラムシがいっぱいのカラスノエンドウを残す様にしています。

何年の前にご一緒させて頂いた方々皆さんお若い、自分だけが年をとった様で続けるという事は元気でいられるという事ですね。